

平成 24 年 11 月 15 日

日本ニューロリハビリテーション学会

代表 才藤 栄一 様

一般社団法人日本臨床神経生理学会 脳刺激法に関する委員会

委員長 宇川義一

磁気刺激の臨床応用と安全性に関する研究会

代表世話人 辻貞俊

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素から臨床神経生理学会の活動にはご理解をいただき感謝申し上げます。

さて最近経頭蓋磁気刺激法・直流刺激法の治療器としての応用が広がってきております。これらの刺激方法については、20年前から我々の学会では研究会、委員会を設けており、慎重に研究を進めて参りました。一般に応用が広がった状況を踏まえ、今一度臨床応用についての注意を喚起させていただきたいと思っております。

一般的な重要なポイントは以下の4点になります。

- ① 反復磁気刺激は医師が行うこと。
- ② 刺激回数等の基準については、すでに出されている基準に従うこと（下記文献参照）。
- ③ 不測の事態に対処できる状況で行うこと（モニター・救急カートを準備し、すぐに救急処置ができる体制を整えるなど）
- ④ 刺激は施設での倫理委員会は必ず通してから行うこと、など安全の基準をぜひご確認ください。

なお安全性の基準の詳細につきましては、下記の文献をご参照ください。

- 1) Safety, ethical considerations, and application guidelines for the use of transcranial magnetic stimulation in clinical practice and research (Rossi et al., Clin Neurophysiol 120: 2008-2039, 2009)
- 2) 磁気刺激法の安全性に関するガイドライン 臨床神経生理学 39: 34-45, 2011
- 3) 経頭蓋直流電気刺激（transcranial direct current stimulation、tDCS）の安全性について 臨床神経生理学会 39:59-60, 2011

ご理解の上、なにとぞ上記の基準を守って刺激をおこなっていただきますようお願い申し

上げます。末尾となりましたが、貴学会のますますのご発展を祈念いたしております。

問い合わせ先： 一般社団法人日本臨床神経生理学会

日本臨床神経生理学会 学会事務局

〒141-0031

東京都品川区西五反田 7-10-4 金剛ビル 株式会社コネット内

TEL:03-3779-3326 FAX:03-5719-7516

e-mail: [jscn@conet-cap.jp](mailto:jscn@conet-cap.jp)